

売上高初の1億1千万

非鉄金属原料流通の長岡商店（本社：東京都八王子市、長岡秀明社長）は、2027年6月期の売上高で初の10億円突破を目指す。今期の設備投資は、使用済みアルミ缶（UBC）を保管する倉庫の借入れを検討している。26年6月期は増収増益。売上高は前の期より18%増の10億円弱だった。取扱量の増加やUBCをメインとするアルミスクラップの単価上昇が売上高の増加に寄与した。

一方で、そのうちUBC

U B C 倉庫借り入れ検討

長岡社長が社長に就任してから6月で10年目を終えたが、これまで売上高と経常利益が前年を下回ったことは一度もない。同社が48年の設立100周年を目指す中、今期は「会社がつぶれにくいといわれる売上高10倍、スクラップの取扱量は月700—800トン、億円の壁を越えたい」(長岡社長)と意気込

で、そのうちUBCをメインとするアルミスクラップが約半分を占める。市町村など自治体の入札が取れた際には1000トン迫る月もある。2年前は月50・600トンだった。

買い取る不適正な業者に銅スクラップが流れている影響と同社はみている。

今期の設備投資として、スクラップ倉庫の借入れを検討している。長岡社長は「自社

平方分の敷地取得を進めていた。ただ、緑地などの保全を目的とした市街化調整区域が障害となり頓挫した。現状ではヤードが手狭になりつつある。

他には完全オーダーメイドのフォークリフト2台（2・5トと3・5ト）を年内に更新する。昨今、重機やトラックなどは故障した部品や新車を発注しても納期に時間がかかることを考慮し、フォー

セ柔軟にフレキシブルに引き取ることが可能なことに加え、併設している中間処理工場で加工の際に発生する廃棄物を安価に処理ができることを反映し、高価な買い取りが可能なことが同社の強み。引き取りは自社便で行いたい（長岡社長）との思いは強い。同社では免許取得までに掛かる経費を会社で負担する大型免許取得支援制度を導入しており、ドライ

バーの育成にも力を入れている。

貴則 木県
に

ドロスパウダ

加藤貴則・加

東京非鉄協組アルミ部会

メーカーの買い気後退

東京の非鉄原料関係
で組織する東京非鉄金
協同組合のアル
ミ部会（アルミ部会長
・岡村雄梧・岡村金属
社長）は27日、東京・
上野で定例会を開催
し、過去最多の17人が
出席した。8月に入り
アルミスクラップの
急落は一服したが、足
元では先安を見据えた
高値修正も入ってい
る。市中発生が落ち込
んでいるため、スクラ
ップに対するメーカ
ーの引き合いはある
ものの、買い気が強い
とは言いがたいよう
だ。

盆休みを挟む8月
は、各組合の会合が少
ないこともあり「アル
ミ部会」で情報を得よう

と参加者が最多」とな
った。アルミについて
積極的に字びたい出席
者も複数人いた。27日
にレベル5大雨特別警
報が発表された北陸地
方の被災状況について
報告があり、建物が一
部浸水するケースがあ
ったようだ。

アルミスクラップ市
況の報告では、スクラ
ップ発生の落ち込みか
ら「仕入れ単価が下げ
づらい」との声が聞か
れた。先行きスクラ
ップ価格が上昇するとの
思惑も、スクラップが
出てきづらい一因とみ
られる。

使用済みアルミ缶
(UBC)に対する見
方は出席者の間で分か
れた。関係者の注目度
が高いUBCの売却量
で全国有数を誇る横浜
市(戸塚区・鶴見区・
緑区・金沢区)の10月
渡し入札が、前月渡し
よのキロ9・9円高、

平均単価419・4円を付けるなど下げ一服したことは好材料と捉えている。一方で、依然として「日本のUBC価格は世界で最も高い」状況にあり、UBCの海外流出は一服模様。国内での引き合いにもバラつきがあるようだ。

他スクラップでは、印刷板やAサッシ、ホイールなどはメーカーの引き合いが底堅い。

ただ、スクラップ急落前に比べメーカーの在庫が多いことから「メーカーの買い気は後退しており、スクラップが安ければ購入するにとどまる」との指摘があった。

アルミ部会では積極的な参加を募っている。アルミ業界に携わる原料問屋や商社、メーカー、メディアが集い、最新の市場動向やリサイクルに関する最新

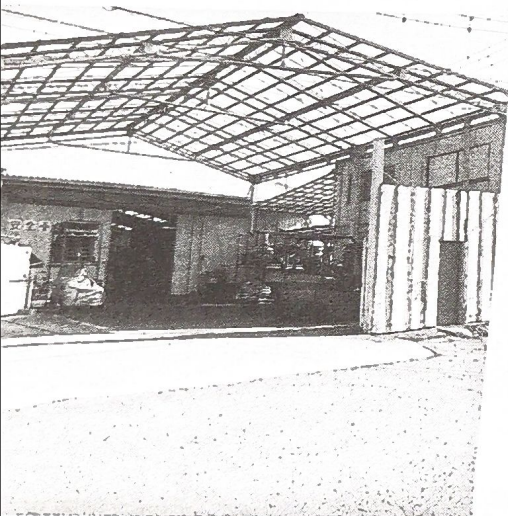
YKKAPは、リサイクルアルミ比率100%の建材「Re・A・アル」が、東の新築賃貸集合（仮称）南千住プロジェクトに

エリクソンズ（本社）さいたま市岩槻区、春山充代表取締役）は、家畜由来の黒毛・ターなどから、多様な資源を高度に回収・再生する総合リサイクルだ。重要物資のネオジム磁石やスマートフォンに不可欠な銅を独自設備で高効率に回収する。さいたま市の本社工場を見学した。

黒毛一タ一再生

最寄り駅は埼玉高速鉄道の浦和美園駅。近隣にはサッカークラブ、2002年日韓ワールドカップで日本戦や準決勝が行われた「埼玉スプリングス2002」があり、サッカークラブにはおなじみの駅だ。ここから車に乗り、10分強で到着した。工場の敷地面積は約670平方メートル。15人の従業員が働く。工場はコンクリートで、

銅を高效率回収



本社工場外觀

独自の設備とノウハウ活用

と「ローター（回転子）」からなる。これをシエルという密閉容器で格納している構成だ。

プラズマ切断機を用い、手作業でシエルを切断する。火器の扱いが制限されるプラントではプラズマが導入できないため、プラズマの保有は強要だ。切

部のステーターとローターの処理に進む。ステーターとローターの分離は手作業で行う。ステーターは主にコア（鉄心）と巻いた銅線からなるコイルからなる。複数のコイルからなる集中巻ぎは破砕して銅と分離し、

と変わらないが、作業者は形状から一瞬で判断できるといふ。鑄物品は近隣の鑄物メーカーへ有価で売却する。その他は鉄スクラップとして鉄リサイクル事業者に納める。

エアコン由来の黒毛ターは、ローターと



木県鹿沼市)の加藤貴則
専務。
同社は国内では栃木県
鹿沼市と石川県加賀市に

ドロスパウダ

加藤貴則・加